



e-La Voz
「エー・ラ・ボス」と読みます

HCJB『アンデスの声』
日本語放送
メールマガジン
(第43号)

2006年9月19日発行

主は私の羊飼い。(詩編23:1)

旧約聖書の詩編23編が久子は大好きでした。病床でも英語でよく暗唱していたので、病床の久子を囲んだ家族の集いではケーシー牧師もこの詩編を読んで祈りをささげました。ふりかえれば久子との二人三脚は今年で45年。その歩みは大牧者であるイエスに導かれ、助けられながらの幾星霜でした。



久子が牧者である主の声をきいたのは結核療養所でした。肺上葉切除という当時ではリスクの高い大手術にのぞんだ時、「主の恵みはあなたに十分であり、その力は、弱さのうちに完全に洗われる」と書かれた聖書のことばが支えとなりました。手術中に呼吸困難に陥り3日間生死をさまよいますが、この経験は彼女を「生きる重み」にめざめさせます。療養後日本クリスチヤン・カレッジ(東京基督教大学前身)の伝道部秘書として7年間勤務。1963年、結婚2年後には電波宣教師として南米エクアドル国に飛びます。アンデスの峰をこえての日本語放送「アンデスの声」で36年間活躍。放送だけではなく、リスナーからの返信業務や家庭では主婦として、また3人の母親として一人三役の重責を果たします。長男は日本生まれ、長女はアメリカ、次男はエクアドル生まれの日本人第一号。久子の出身校は神奈川県厚木高等女学校で短距離や三段跳びは県大会で優勝するほどのスポーツ選手でした。ただ高等教育にはすすまず、放送もズブの素人とあって、いつも控えめな存在でしたが、主の羊としての忠実さにおいてはだれにもひけをとりませんでした。毎日休むことのできない放送の仕事を長年つとめあげ、その間数えきれないリスナーからの手紙の一通、一通に返事をしたためるという至難の技をこなすことができたのは、ひとえに「弱いときに強い」主の恵みというほかありません。

たとい、死の陰の谷を歩くことがあっても、
私はわざわいをおそれません。(詩編23:4a)

南米生活はハプニングの連続でした。外的には軍事クーデター、天災、盗難など、内的にも誤解、中傷による精神的抑圧などで暗い日々にも耐えなくてはなりませんでした。肉体的に久子は帝王切開分娩の手術から坂道の多くて足に負担をかけたための静脈瘤の血管摘出手術。椅子が倒れて頭部を強打したための鬱血注出処置、米国ではリンパ節腫瘍に対する化学治療、C型肝炎による腹水の処理など多くの試練に遭わされました。しかし、その深い谷底にあえぐような不安な日々を過ごしながらも明日への希望をつなぐことができたのはつぎの約束でした。

あなたが私とともにおられますから。(詩編23:4b)

人生途上、主のみこころがつかめなくても、次のステップがわからなくても、今、この瞬間、「主がともにいてくださる」と確信が慰めであり、生き抜く力となるのです。医療チームとの話し合いで終末治療にふみ切り自宅介護になってからでも、久子には変わらぬ主のいつくしみと恵みにひたりながら静養につとめました。ひしひしと追ってくる旅路の終わりを感じながら。そして先週金曜日に次男祐二夫妻が久子の生家から姪を同行して日本から来てくれました。ひさしぶりの再会と楽しい語り合いに久子の顔にもいつものほほえみがもどってきました。

つぎの日。9月17日日曜日の夜明け前、久子が肩で息をして苦しそうなので家族みんなでベッドのまわりに集まりました。5時43分、私の手をぐっと強くにぎりしめた久子が大きく息をしたのが最後でした。イエス様が優しく手をさしのべ。両腕に久子をかかえて天に連れもどしたのです。久子の身体にはしみもきずもなく、表情は実におだやかで、まるで羊飼いのふところにいだかれた子羊のようでした。

谷間ふかく迷いゆきて／飢え疲れし小羊を
胸にいだき帰りたもう／主はやさしき羊飼い(南米聖歌)

私は、いつまでも、主の家に住まいましょう。(詩編23:6)

久子は床に伏すまで放送でリスナーによびかけていました。「みなさまひとりひとりの上に神様の恵みと祝福がありますように！」澄んだその声は広い世界の空をかけめぐっていました。与えつづけてきた神の恵みと祝福を久子みずからが受けるときがきたのです。「神のなさる事は、すべて時にかなって美しい。(伝送の書3:11)」死に至まで忠実だった久子は今頃天国の花園で天使たちに囲まれて賛美していることでしょう。

ながれ清き水のほとり／もゆる若草の野辺に
耳にひびく主のよび声／共に住まわんとこしえに(南米聖歌)

HCJB日本語放送担当

在主 尾崎一夫

HCJB日本語放送(オーストラリア送信)：

放送日時： 毎週土曜日、日曜日
日本時間 0730 – 0800 (2230 – 2300UTC)
送信周波数： 15525 kHz (19mb)
受信報告書の宛先： 〒169-0073
東京都新宿区百人町1-17-8
淀橋教会HCJB係
(※返信用に80円切手を2枚同封して下さい)

【ホームページのご案内】

HCJB日本語放送のホームページ(<http://japanese.hcjb.org/>)には、リスナー・コミュニケーションのためのふれあいコーナー「[フォーラム](http://japanese.hcjb.org/forums/)」(<http://japanese.hcjb.org/forums/>)と、メールマガジンのバックナンバーを揃えた「[メールマガジン e-La Voz らいぶらり](http://www.hcjb.org/japanese/mmz/)」(<http://www.hcjb.org/japanese/mmz/>)のページがあります。どうぞご利用ください。

このメールマガジンは、HCJB日本語放送の管理するメール・リストに登録されている方に無料でお送りしています。このメールマガジンをご覧になってのご感想やご意見、ご要望などは、[HCJB日本語放送](#)までお送りください。
また、このメールマガジンの配信停止、配信先変更、あるいは新規ご登録も[HCJB日本語放送](#)までメールにてお知らせください。なお、メール・リストは配信先メール・アドレスのみで管理されていますので、配信先変更をご希望の場合には、現在登録されている配信先も併せてお知らせください。

Copyright © 2006 by HCJB. All rights reserved.



日本語ホームページ: <http://japanese.hcjb.org/>

Eメール: kozaki@hcjb.org

郵便の宛先:

Mr. Kazuo Ozaki

1920 Berkshire Pl., Wheaton, IL 60187-8050, U. S. A.
